

1 自己評価及び外部評価結果

平成29年6月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800139		
法人名	(株) ハートフル		
事業所名	ケアタウンとなみ		
所在地	富山県砺波市庄川町青島208-1		
自己評価作成日	平成29年5月15日	評価結果市町村受理日	H29年7月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は小規模多機能型居宅介護との併設となっていますのでグループホーム2ユニット18名だけの生活ではなく小規模多機能型サービスの利用者との交流や馴染みが生活の中に自然に生まれることにより、日々の暮らしに変化や刺激が生まれ、より安心できる空間づくりを支援できることが特徴であると考えています。また季節毎の行事や外出支援にも力を入れており、一般的な介護施設のイメージとは離れた部分も満足して頂いているところであります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、人生の先輩として利用者から生活の知恵などを学び得ながら、共に暮らす支援に努めている。庄川の爽やかな川風を受けて近所を散歩したり、花菖蒲が見頃と聞けば、ドライブがてら見物に出かけるなど、戸外で過ごす機会を多くついたり、地域のマジックボランティアに来てもらい、手品や話術に感嘆するなど、利用者が張り合いを感じられるように心がけている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

ケアタウンとなみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を各自持ち、又いつでも共有できるよう、スタッフルームにも掲示し、日々の話し合いやミーティングでも常に立ち戻る原点として根本的な考え方を共有し実践につなげている。	法人としての理念や行動基準をもとに、事業所独自の理念を職員間で話し合っつくり、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練では地域の方に参加して頂き、又地域の行事（えざらい）では事業所職員と利用者が参加し、交流できるよう努めた。又昔馴染みの店に顔を出す等利用者と地域の方の交流が維持できるように努めている。	自治会の清掃に参加したり、保育園の発表会を見に出かけたりしている。また、大正琴や風船作りのボランティアの慰問を受けるなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方々の集会に参加させて頂き、当事業、事業所内を知って頂いた。現状はまだまだであり、今後地域の高齢者の暮らしにどう貢献していけるのかが課題として挙げられ、今後も民生委員等の力をお借りし地域貢献できるよう努めていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告や予定などを中心にお伝えし、参加いただいたメンバーからの質問、意見、要望を受けながら、地域の情報交換の場としても活かしている。要望があれば対応できることはすぐ対応し、現在、運営推進会議には利用者本人も参加している。	事業所からの活動報告のあとに、意見交換の時間を設け、事業所で予定している納涼祭について、自治会や地域包括支援センター職員、家族などから具体的な提案をもらうなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護課の方ともしっかりと話し合う場を設けて頂き、こちらの事業所の考え方や今度の取り組みについて説明した。今後も連絡を取り合いながら、協力関係が築けるよう努めていく。	市とは、事業所の運営方針などについて説明する機会をつくり、その後も、わからないことを相談するなど、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠はもちろん、行動を抑制するような言葉掛けであっても、身体拘束に繋がるということを話し合い、スタッフ一人ひとりへの意識づけを行い、利用者の方々に窮屈な思いをさせないように取り組んでいる。	利用者の行動を抑制するような言葉かけや対応がないよう、職員間で留意している。また、安全を優先するような支援であっても、その方法でよいかをカンファレンスなどで確認し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人としての人格や尊厳、生活歴というものをスタッフで話し合い、言葉遣いやケアの方法が虐待になっていないかスタッフ同士が確認しあい、見過ごさない、起こさない体制づくりを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状権利擁護や成年後見制度の仕組みはごくわずかなスタッフしか周知しておらず、今後の課題として事業所内で勉強会を開催し、スタッフの理解に努め、必要と思われる方に対しては、行政の担当者や家族と連絡をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては重要事項について説明し、料金改定等あればその都度連絡、報告を行い信頼関係が築けるよう努めている。又話しやすい雰囲気作りに注意し、家族の不安や疑問点についても早急に対応できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては常に表情や態度などに注意を払い、こちらから話しやすい機会を設けるよう努力めている。また家族等に関しては、こちらから電話をかける際や面会時などに、意見や要望について伺い、日々に活かせるようスタッフにも周知し反映させている。顔を合わせる機会の少ない家族とは意図的に連絡をとるなどし、意見、要望も取り入れている。	家族には面会時などに要望を聞くほか、メールで連絡を取り合うなど、良好な関係を築くように努めている。利用者からの「買い物に行きたい」などの要望に応えるなど、利用者や家族の意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションをとる機会を普段よりスタッフ同士でとりつつ、随時ミーティングや法人代表を交える会議の際などに交換した意見を代表に取り次ぎ、運営に反映させている。	職員が話しやすいような雰囲気を作り、ミーティングの場や空き時間などに意見を聞いている。利用者の楽しみとなるカラオケ装置の購入など、職員の提案を運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとコミュニケーションを大切に、どういう思いでいるのか確認し合い極力希望に応じれるよう努力をしている。また管理者は個々の勤務状況、仕事に対する姿勢、改善への取り組みなどの成果を随時法人代表に報告し、条件の整備に反映できるよう努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会や外部の研修、外部から来て頂き研修するなどし、職員の質が向上できるよう努めている。今後は更に新たに作成した「ケア実践度評価表」を基に経験年数や個々の力量の進展に合わせ、具体的な指導を行い、更なる介護力・人間力の向上を図るよう努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の研修会に積極的に参加し、共により良いサービスにしようという意識を高め合っている。また他の施設に訪問させて頂き、相談や情報交換を通じ、サービスの質の向上に向け努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なかなかうまく言葉がでない利用者さんでも、本人が安心できるよう、気持ちの確認・代弁をしながら、また挨拶を通じ本人の声に耳を傾ける時間を持ち、関係性が築ける様努力している。また初見の他利用者とのコミュニケーションでは円滑に出来るように仲介に入り、馴染みやすい雰囲気作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用申込時には現在の生活での不安や今後への展望などを丁寧に伺い、本人が事業所を利用することになっても前向きな生活が送っていけると感じていただけるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所としてのサービスが本当に本人と家族にとって、適切なのかどうかということから再度話し合い、現担当ケアマネージャーや医療ソーシャルワーカーなども含めて検討することとしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや盛り付け、買い物等を利用者とスタッフ共に行い、利用者にありがとうが自然と出る環境創りに努めている。また利用者の得意なことは利用者から教わろうとする姿勢も大切に日々ケアにあたっている。共同生活者・協力者として各利用者が自信を持ち生活して頂けるように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者についての相談助言を頂くこともあり、受診の際や本人の必要なものを持って来られる際に顔を見る機会を作るなど意図的に行い、家族と共に利用者を支えられるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人や商店、行きつけの場所、個々のかかりつけ病院等、本人がこれまで培ってきた人間関係や社会関係など把握し断ち切らないよう努力している。また気軽に訪ねて頂ける雰囲気作りに注意し、昔からの関係を大切にできるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に行き、馴染みの看護師や患者さんと世間話をしたり、地元の祭りの飾り物づくりの見学に出かけている。また、知人などの訪問時には、楽しくおしゃべりできるようサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人や、利用者同士の関係について職員とも話し合い、座席や居室移動等考慮し、孤立しないよう、またいい雰囲気作りに努めている。また午後のレクリエーションや外出支援を通じ、座席が遠い方とのコミュニケーションもとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が入院などによって中断することになって、家族からの要望があれば、数週間や数か月は居室を確保しておく事や、契約が終了しても、その後の状態など確認し、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	想いを察するために表情、行動、会話などの情報をスタッフで共有し知ろうと努めている。本人の思いや意向に対しては、なるべく叶えられるようスタッフや家族にも協力してもらっている。どうしても無理な場合はしっかりと説明で対応している。意思疎通が困難な方に対しては、家族などからの情報を基に、本人の希望や意向を把握できるように努めている。	利用者と会話をするときは、目と目を合わせゆっくりと希望などを聞いている。また、外出時の笑顔や食事の準備時などのいきいきとした表情などに留意し、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前担当ケアマネージャーや本人、家族からの情報収集を、独自のアセスメント様式と合わせて行いながら、現在までの経過把握に努めている。また日々の会話を通じて利用者を知ろうと努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや日々の介護記録により、全職員が一人ひとりの好みの生活様式や体調の変化を把握しサポートするように努め、夜間帯での出来事もみんながわかるよう記録、申し送りし情報の把握に努めている。また日々の生活の中で目配り・気配り・心配りを大切にしながら些細な気付きを大切にし本人のできる力・わかる力を発見できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、現状や思いなどの意見を出し合い、それに沿って計画を立てている。もちろん初回だけではなく、日々の暮らしの中で、この方は何を大切にしようといった暮らしがしたいのか常に考え、本人や家族とも連絡を取り、介護計画に反映させている。	職員の日頃の気づきや提案を記録したノートなどをもとにし、また、家族からの「家族と離れたことで寂しい思いをさせないでほしい」などの要望を、具体的な支援方法につなげる介護計画をカンファレンスで話し合っ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護記録、特記事項の他、生活支援記録を利用し、日々の暮らしや様子、些細な気づきや本人の発言など記録し、全職員が情報を共有できるようにしている。それらの情報や本人の意思、カンファレンス等を通じ介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスのみではなく、歯科検診の実施や、ボランティアの慰問、また本人の希望や、家族の状況に応じて、適宜外出や外泊、買い物、受診の付添いなど、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地元のボランティアグループに慰問に来て頂いたり、個々に合わせた町の理美容院、病院などを把握し、地域とのつながりを大事にし、又ボランティアの方々等の力を貸して頂き、日常に変化と彩りを設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は利用申込時の段階から、本人、家族が自由に行えることを文書、口頭にて説明しており、基本的には現主治医を引き継ぐ形で対応している。	入居前からのかかりつけ医との信頼関係を尊重し、そのまま継続してもらい、家族が受診に付き添っている。また、本人の経過が的確に伝わるよう、かかりつけ医と書面でやりとりするなど、医療面の連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常にスタッフには気づきを大切にしたいと伝えているので、少し変わった様子があれば報告を受け、適切に対応にあたっている。また日常から利用者の健康状態を把握し、体調不良や状態変化など見られた場合、いち早く医療に連携できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際には、本人の状態を病院関係者に伝え、安心して加療が行えるように努めている。入院中も情報交換しながら状態の把握を行い、早期退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の状態変化が予想される場面であっても、本人や家族の思いと主治医の方針を確認し、事業所の思いをもって、状態変化の早期発見、連絡措置に努めることをお伝えしている。	事業所としては、看取り支援体制が整っていないことを、家族やかかりつけ医に説明し、理解を得ている。関係者と今後の方針を共有した上で、可能な限り支援することとしている。	今後は、重度化や終末期に向け、事業所としてできること、できないことなどの指針を作成し、かかりつけ医や家族と方針を共有する体制をつくるのが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状、全てのスタッフが実践力を身につけていると言われればできていない。今後の課題として、事業所内研修にて、実践に活かせる勉強会を開催していく方向。消防署に施設内での研修を依頼済。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回計画し、消防署にも立会いを依頼している。今後の課題として、地域住民の協力を得られるよう信頼関係を構築していくと同時に、地域のハザードマップや避難場所等も情報収集し、協力体制を築いていきたい。	火災を想定しての避難訓練を年2回実施しているが、大雨時の浸水対策や地域との協力体制づくりなどが課題となっている。	自治会からは避難場所や水害時の浸水状況などの情報を得ているが、今後は、地域と協力体制を築くことが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は本人の住まいであるので、プライバシーを損ねないよう、居室に入る際は必ずノックや声掛けをし又いない際に勝手に入室しない等配慮している。また傾聴・受容・共感を大切に一人ひとりを尊重し相手に寄り添う支援を目指している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、利用者の知恵や経験などを学び得て、支援に活かすように努めている。また、笑顔でゆっくりと丁寧な言葉遣いと態度で接するよう職員間で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に促したりせず、本人が自分で決めることができるよう、思いや希望を大切にしている。意思表示が困難な方に対しても選択肢を示し、表情から意思を読み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や嗜好を理解したうえで、軽作業などのメニューの希望を取るなど、本人のペースに合わせた1日の流れを提供するよう心掛けている。またその日に外出等の希望があれば、休憩時間等1日の過ごし方に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容サービスを希望者が集まり次第依頼しており、カットや毛染めを行っている。また馴染みの理美容院の利用支援を行っており個別に対応している。そしてレクリエーションの一環としてネイル等も行い、服装と合わせる等褒め合ったりして、笑顔が生まれるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は配食サービス利用中の為調理はないが、おしぼりの準備や盛り付け、食器拭き等一緒に行っている。片付けも利用者本人たちで役割分担するなど、役割意識が定着している。また食事は利用者と職員共に同じテーブルで食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるよう努めている。	利用者と一緒におむすびを握るなど、できることを手伝ってもらっている。また、食事前の嚥下体操や献立説明など、食欲をそそるような支援を行い、皆で食事を楽しむ雰囲気をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を基に提供し、食事以外でも入浴前後や午前午後にはティータイムを設けている。多めに摂って頂きたい方には適宜手の届き易い位置に水分を置くように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後必ず徹底しており、入床前には義歯を外していただき、習慣的に義歯洗浄剤での清潔保持を行っている。また年に1度歯科検診を行い口腔チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力トイレで排泄できるよう支援し、声掛けやトイレ誘導、適切なパット類の使用にて失禁を軽減できるように努めている。またトイレ排泄間隔を掴む為に排泄チェック表を一人ひとり記入している。	トイレでの排泄ができるよう、声をかけるタイミングや使用するパット類などの支援方法をカンファレンスで話し合い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に対しては、日常より多めに水分摂取を促したり、起床時の牛乳提供、乳製品の摂取、全身運動、腹部のマッサージなどを行い自然排便を促すよう努めている。排便コントロール不良の場合は下剤考慮し適宜調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は本人の希望により決まっているが、不意の汚染や発汗が多くみられた場合などは随時入浴の機会を設けている。また外出や受診等で都合が悪ければ日をずらす等して対応している。	一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくりと入浴してもらっている。気分転換に入浴剤を入れ、職員と好きな香りについておしゃべりするなど、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間によく眠れるように、個々の生活リズムを尊重しながら、日中の活動を適切に支援している。午睡の調整や室温、明るさの調節、足浴等快眠できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用についての説明書を職員室に配置し、いつでも閲覧できるよう努めている。また新しく開始した薬や中止になった薬等も把握し送りノートや個人記録にも記載し、職員に周知徹底できるよう努めている。また服薬介助時は本人に名前を言ってもらい、日付の確認をし誤薬の無いように努め、また服薬介助が必要な方に対してはどこまで職員の介助が必要か相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割や楽しみ、気分転換を考慮し、馴染みや好みに合わせ提供できるよう努めている。また気候や希望に合わせて外へも積極的に出掛け、気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など一人ひとりの希望や状態に応じて、気軽に行けるように支援している。家族にも受診で出掛ける際などに、お参りの希望があること等お伝えし、可能な限り本人の希望に沿えるように配慮している。	体調や天候に合わせて、庄川の爽やかな川風を受けながら近所を散歩したり、花菖蒲が見頃と聞けば、ドライブがてら見物に出かけるなど、気軽に外出できるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば現金を家族より預かる形で管理している。少量の額であれば本人で管理している方もおられ、本人が買い物など行く際には、本人で支払いをして頂き、お金の計算や取り扱いを実感できるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、家族に無理のない範囲でいつでも掛けられるように配慮している。手紙なども便箋等用意して気軽に出せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気や季節を感じやすいように、ホールでは季節感のある掲示物を用意したり、積極的に外を眺められるように支援している。それぞれの居室やトイレには表札を設け、分かり易くなるように配慮している。	夏の納涼祭の提灯や七夕飾りなどを、開放的で落ち着いた雰囲気のリビングで、皆で和気あいあい作りながら、さり気なく季節感を感じてもらっている。また、冬場の床暖房など、温度や湿度などを利用者に合わせて調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	床の間スペースでは仏様を拝んだり、お茶を嗜んだり、通常過ごされる居室やホールとはまた違った、より親密な時間と関係作りが行えるよう支援している。またテーブル以外でもフロア内にソファを配置し、共用空間の中で、個々の居場所が確保できるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご自宅より馴染みのあるものを持ってきていただくように契約時より促している。写真や本人の描いた絵なども飾り、自身の居場所であると認識しやすいように努めている。また個々に応じて手すりの配置やベッドの配置等考慮し配慮している。	置時計や衣装ケースなど、入居前から使っていたものを持参してもらっている。また、亡夫の写真や愛用品を目の届く所に置くなど、居心地のよい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADL（日常生活動作）状況やトイレ、居室との位置関係、他利用者との関わり具合に配慮してホールの座席や、居室等を決めるよう考慮しており、安全にそして安心して過ごせるように配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアタウンとなみ
作成日 平成29年 7月16日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在職員に対しての教育が不十分であり、看取りについての勉強が行えておらず、受け入れがたい状況になっている。	職員に対してまずは看取りについての勉強会を開催し、職員のスキルを高め、受け入れ体制を整えることを目標にしたい。	目標達成に向けた具体的な取組み内容としては、ターミナルケアについての研修に参加することや、施設内での看取りについての勉強会を今後行っていきたい。	半年
2	35	避難場所等の確認は行っているが、地域の方との協力関係はまだ築くことができていないのが現状。また備蓄品などについてもはっきりできていない。	地域との協力体制がとれるよう行事などを通じ、地域との関わりをより深めることを目標にしたい。備蓄品についても相談しながら徐々に準備していきたい。	目標達成に向けた具体的な取組み内容としては、消防訓練などの地域の方の参加や納涼祭などの行事へ来て頂くことを考えている。また備蓄品についても食べ物の数等しっかり準備し、どのように把握し処理等するか考えていく。	半年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。